2007
No. 5
May

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター　〒116-8567　東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111　ＦＡＸ03-3894-0282　http：//www.twmu.ac.jp/DNH/index.html

部長就任のご挨拶

4月1日付で部長に就任いたしました脳神経外科 糟谷英俊教授、心臓血管外科 中野清治教授、皮膚科 田中勝教授のご挨拶を申し上げます。

脳神経外科



教授　糟谷　英俊

私は昭和５７年徳島大学を卒業後、直ちに東京女子医科大学脳神経外科に入局し２５年になります。専門は、脳血管障害全般、良性脳腫瘍、三叉神経痛や顔面痙攣などの機能性疾患です。最近では、脳腫瘍手術件数日本一の東京女子医科大学の本院を支えてきた一人と自負しております。

今回、縁あって東医療センターの診療部長を拝命いたしました。当センターの脳神経外科スタッフは、少ない人数ながら、文字通り粉骨砕身、城東地区の脳神経外科救急疾患を２４時間体制で扱っております。今後は、現在の脳血管障害・外傷を中心とした救急体制をさらに充実させ、血管内治療を取り入れた城東地区の脳卒中センターを目指したいと考えております。

また、私のこれまでの経験を生かして、髄膜腫などの良性脳腫瘍、機能性疾患に積極的に取り組んで参ります。

Sir William Osler の Medicine is an art based on science. の言葉はあまりに有名ですが、外科学におきましても、science の感じられない art であってはならないと考えます。エビデンスに基づいて診療を行ってまいります。

また、大学附属病院として、世界に新しい情報を発信する役割を果たさなくてはなりません。私は、平成１３年、日本全国から同胞発症の脳動脈瘤患者様を集め、世界に先駆けて脳動脈瘤の遺伝子座を見出しました。今後は、くも膜下出血・脳動脈瘤を教室の中心テーマとして、人の幸せにつながる研究を行っていきます。

最も力を入れたいのは、次世代の人材育成です。確かな技術を身につけ、新しい知識を吸収し、患者様やコメデイカルと誠実なコミュニケーションをはかることができる医師、研究心を持ち、新しい医療に挑戦できる医師を育てたいと思います。

ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

心臓血管外科



教授　中野　清治

竹内靖夫教授の後任として平成１９年４月１日より心臓血管外科を担当することになりました。

今までのスタッフと共に、これからも地域の中核病院としての役割を果たしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

当科では狭心症、心筋梗塞、弁膜症、動脈瘤、成人の先天性心疾患、心臓腫瘍、不整脈、末梢血管病変、静脈瘤など循環器疾患の外科治療を行っており、小児の複雑心臓奇形に対する修復術と心臓移植を除いたすべての高度医療が可能です。循環器内科の先生方と緊密な連携を取ることにより、手術だけにこだわらずに、患者様にとって最も良い治療法が行われるように心がけています。

動脈グラフトによる冠動脈バイパス手術、心拍動下冠動脈バイパス手術、弁形成手術、心房細動に対するメイズ手術、無輸血手術などを積極的に行い、患者様の術後の生活の質（ＱＯＬ）の向上をめざしております。また、緊急手術の受け入れ体制も確立しており、よその医療機関からの要請に関しましては迅速に対応致します。

今後は、手術を受けるかどうか迷っておられる方、また、治療方法の選択に迷っておられる方のために、心臓弁膜症外来など特殊外来を設け、的確な情報を提供していくつもりです。さらに、セカンドオピニオンにも対応致したいと思っております。

以上のような患者様がおられましたら、責任を持って対応をいたしますので、是非ご紹介いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

皮　膚　科



教授　田中　　勝

この度、平成１９年４月１日付をもちまして、原田敬之教授の後任として、東医療センター皮膚科を担当させて頂くことになりました。微力ではございますが、患者様のＱＯＬを少しでも改善できるような皮膚科診療を目指し、皮膚科学の教育・研究にわずかでも貢献できますよう誠心誠意努力致す所存でございます。

専門は皮膚がんの診断と治療、特に、ダーモスコピーによるホクロ、メラノーマ（悪性黒色腫）、基底細胞癌などの皮膚腫瘍の診断です。ダーモスコピーとは、ホクロなどの皮膚病変に超音波用ゼリーなどを付けて、明るく照らしながら１０倍の拡大で皮膚を詳しく観察する無侵襲の検査です（ホームページにも説明を載せております。　http://www.twmu.ac.jp/DNH/shoukai/hifuka/index.html）ダーモスコピーは、平成１８年の４月にようやく保険収載された、まだ新しい診断手技ですが、肉眼による従来の診断に比べて、正しく診断できる確率が上がるというエビデンスが数多く示されています。ダーモスコピー検査は皮膚科においても発展途上ですので、日本皮膚科学会と協力し、ダーモスコピーを全国に普及させるべく力を注ぎたいと考えております。さらに、慶應義塾大学理工学部、法政大学工学部などと共同でコンピュータプログラムを用いたメラノーマ自動解析プログラム、皮膚病変画像定量と患者ＱＯＬ定量の研究も行っております。

皮膚病変を持つ患者様のＱＯＬは内科的な全身疾患と比較しても大きく損なわれていることが示されています。すなわち、外見が障害されることが皮膚疾患特有の重大な問題であるという点を認識し、生命の問題だけでなく、社会的生活を支障なく過ごせるような皮膚にすることが皮膚科医の使命だと思います。

皮膚病変でお困りの方がいらっしゃいましたら、一度拝見させて頂き，ほんの少しでもその方のＱＯＬ向上に貢献できれば、うれしく思います。

３月３１日付をもちまして、脳神経外科　河村弘庸教授、心臓血管外科　竹内靖夫教授、
皮膚科　原田敬之教授が定年退職いたしました。

女性専門外来の紹介



副院長　川真田　美和子

当院に女性専門外来が誕生してから一年が経ちました。
女性医師による、女性のための外来はおかげさまで好評をいただき、今秋からは日暮里クリニックの性差医療専門外来の一部門としてあらたに生まれ変わる予定です。
これからも女性の皆様のお悩み解決の窓口となるべく、一層の努力をして参る所存です。

担当予定医師（日替わり、１枠３０分）

山田　朱織（整形外科）、根岸　圭（美容外科）、加茂　登志子（精神科）、檜垣　祐子（皮膚科）
巴　ひかる（泌尿器科）、佐藤　美枝子（婦人科）、　平久美子（ペインクリニック）
新井　寧子（耳鼻咽喉科）、川真田　美和子（ペインクリニック）

診療日：土曜日　９：００～１３：００（祝日・第三土曜日を除く）

診療場所：外来棟4階スポーツ健康医学センター診療室（今秋より日暮里クリニック）

担当日：２ヶ月前より随時ホームページで告知

保険診療　　完全予約制（電話予約は月～金曜日１４時～１６時）
お問い合わせ・ご予約：０３－３８１０－１１１１（内線３４６１）責任者：川真田美和子

東京女子医科大学東医療センター の地域連携と関連する研究会・勉強会の紹介

内　科



教授 大塚　邦明

東京女子医大東医療センター内科では、受診された患者様を拝見し診療するとともに、それぞれの患者様の生活様式や生活習慣にも注意を払いたいと考えています。地域に生活するありのままの患者様の姿を識ることにより、個人に見合った、より良い診療のあり方を模索しつつ、最適の医療を目指しています。そのためには、受診時のみの患者様を拝見するのでは、十分な診療を行うことはできません。地域の先生方との、いっそう密度の濃い、連携が必要です。

これまで、すでにいくつかの、共同診療調査を遂行させて戴いて参りましたが、この「地域連携と関連する研究会・勉強会」も、是非、連携の一助としてご活用戴ければと、お願いいたします。私どもの内科は、老年医学・循環器・呼吸器・消化器・腎臓・神経・心身医学・血液・糖尿病の９つの診療科と、当内科と連携して機能しています在宅診療の１０の診療科からなる総合内科の教室です。そのため、研究会・勉強会も、高血圧、肝臓、消化管、腎臓、呼吸器、糖尿病と多岐にわたります。先生方のご出席をこころよりお待ち申し上げます。

外　科

教授 小川　健治

満開の桜とともに新年度を迎え、地区医師会や近隣の先生方にはますますご清祥のことと存じます。

日頃は医療連携にお世話になり、心よりお礼申し上げます。

臨床研修医制度と研修医の争奪合戦　初期臨床研修医制度は４年目を迎え、当センターも昨年度末にはその二期生２０名が巣立ち、後期研修に移行しました。今年度新入職の研修医は医科が１６名、歯科が２名で、すでに各科で研修が始まっています。その研修カリキュラム（２年間）は、内科６ヶ月、外科３ヶ月、救急・麻酔３ヶ月、小児科、産婦人科、精神科、地域医療(荒川区保健所)各１ヶ月が必須で、残る８ヶ月は各人の自由選択となります。この初期研修医は、どこの病院も「のどから手が出る」ほど欲しい…。全国で研修希望者約８６００名に対して各研修病院の定員は合計約１１０００名、研修医にとっては広き門。つまり各病院で研修医の争奪合戦という状況…！ 大学でも本当にフレッシュな人材の確保は難しく、医師不足は慢性的です。

外科主催の地域連携と関連する研究会　女子医大では、各科に入局後、後期研修となります。私達の外科も新入医局員が少なく（今年度は１名のみ、全国的な外科離れの影響…？）苦労していますが、「地域と連携した医療、がんを中心とした研究、明日を担う医師・医学生の教育」に積極的に取組んでいます。その一環として、東京外科系臨床研究会フォーラム（教育的内容が中心；７月にホテル日航東京）、同研究会学術集会（当センター外科系各科合同での研究発表：１２月にホテルラングウッド）、東医療センター乳腺カンファレンス（教育的内容が中心：当センター内で年間３～４回）などの研究会を開催しています。いずれも地区医師会や近隣の先生方のご参加は大歓迎です。そのつど、定期的に発行している外科ニュースレターで開催場所や内容をご案内しています。女子医大東医療センターのホームページ(http://www.dnh.twmu.ac.jp/index.html)を開いて外科を選び、「もっと詳しく・患者様へ」の項目にアクセスし、ニュースレターの項をご覧になって下さい。先生方には、研究会・勉強会にぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。



会長講演の
小川　健治　外科教授



昨年の学術集会で特別講演の
榊原　宣　元第二病院長

卒後初期臨床研修を終えて



内科 助教 許山　彩

平成１９年３月３１日、東京女子医科大学東医療センターでの２年間の初期臨床研修を終えることができました。医者として社会人として第一歩を踏み出すことへの期待・不安を持ちながらのスタートでしたが、とても充実した有意義な研修ができたと思います。

当院の臨床研修は１年次の内科、外科、救急医療科、麻酔科と２年時の小児科、産婦人科、精神科、地域医療の必修科に加え、８ヶ月の選択科研修で構成されています。当センターは大学病院でありながら、地域住民の方々の中核病院であるという特色から、専門分野の医療に偏ることなく、幅広い疾患分野の患者様を診察する機会を与えられました。例えば内科では集中治療室に入床するような重症な症例から、数日で退院するような症例まで多岐にわたる疾患を経験することができ、医者としての基本姿勢・診察・手技などを学ばせていただきました。

２年間の研修生活を振り返ると、自分の力不足から思うようにいかずに悩むことや、忙しくて体力的に辛いこと等たくさんありました。しかし、患者様が回復し元気になったときのうれしさは何ものにもかえがたく、乗り越えられた気がします。頑張ることができたのは、多くの先生方やスタッフの方々に指導していただいたのはもちろんのこと、同じ目標を持った同期の仲間とともに励ましあいながら研修できたからだと思います。

私は現在当院の内科に所属し、早く一人前になれるよう診療に携わっています。まだまだ未熟で学ばなければならないことがたくさんあることを日々実感しておりますが、この研修で得たことを生かして日々邁進していきたいと思います。

第９回東医療センターフォーラム開催される



野中倫明先生のご講演



金　光宇先生のご講演

２月３日(土)午後３時より、ホテルラングウッドに於いて第９回東京女子医科大学東医療センターフォーラムが開催されました。

講演１では、当院検査科准教授加藤博之先生の「消化器内視鏡の最近の話題と光学診療部の役割について」、 次に放射線科助教藤村幹彦先生の 「６４列ＭＤＣＴの有用性～16列ＭＤＣＴとの比較」と題した講演が行われました。

講演２として、日頃から地域医療連携にご協力の３施設からご講演をいただきました。



荒木志乃先生のご講演

まずはじめに、特定医療法人一成会木村病院外科の野中倫明先生より「当院における地域医療連携」、次に上智厚生病院の看護師荒木志乃先生より「脊柱管狭窄症術後、在宅復帰に向けてのパス導入の試み」、最後に西新井病院副院長の金光宇先生より「足立区医師会におけるＪ－ＤＯＩＴ2への取り組み」について、各先生が今後の取り組みについて熱く語られました。

講演後は、地域連携関連の先生方と当院職員との親睦・情報交換が行われ、和やかな雰囲気の中にフォーラムは幕を閉じました。

次回の第１０回東医療センターフォーラムは6月２３日(土) 午後３時からを予定しておりますので、是非ご参加くださいますようお願い申しあげます。

編集後記

新年度が始まり、３科の教授（部長）の交代から早一ヶ月がたちました。初期臨床研修を終えた先生方や新入職員も職場に慣れホッと一息ついた頃です。緊張と緩和、体も心もバランスをとってより良い医療の提供が出来ますように職務に励みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、前号に続き今回は外来棟４Ｆの女性による女性のための女性専門外来を紹介いたしました。ご紹介の一助となります様に……。

また、別紙、外来診療担当表および「地域連携と関連する研究会･勉強会」もご活用いただければ幸いでございます。

次回の発行は平成１９年１１月を予定しております。

（地域連携室　古賀）



長野県 北竜湖　（医療情報映像室　住友 撮影）